



## TOKYO 発

文・砂上麻子／写真・松崎浩一  
紙面構成・日比忠司

①40年以上かけて収集した時刻表について語る時刻表ミュージアムの鈴木哲也さん=いずれも中野区で

②時刻表ミュージアムにつくられた時刻表神社。鈴木さんは毎朝拝むのが日課

小遣いがもらえるようになると、八〇年五月号を購入した。当時の時刻表は五百冊ほど。小遣いの半分が消えた。時刻表で気になった列車には印をつけて乗りに乗りた。進学、就職、結婚を行った。進学、就職、結婚を経ながら四十年以上、一度も欠かさず購入を続けていた。十年前からは古本屋をまわり、バックナンバーも収集するようになった。一年ごとに段ボール箱に入れて大事に保管してきた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、鉄道旅行が難しくなった。そんな時、母親が使っていた部屋が空くことになった。集めた時刻表をたくさん見ても、もう古いが大きくなり、「今しかない」と二〇二〇年十一月、時刻表ミュージアムの開設を決意した。壁の一部には寝台特急ブルートレインの車体のブルーを使い、旧国鉄時代の旧型客車の座席を再現するなどだわった。近年は廃止される路線や

こつこつ  
770冊以上

# 時刻表愛



## 空想旅行のおともに ミュージアム完成

東海道新幹線が開通した一九六四年は、新幹線が毎月の表紙を飾り、「夢の超特急」への期待の大きさがうかがえる。七〇年代後半からの一時期は、それまでの風景に代わり人物が多用された。「表紙の雰囲気ががらりと変わって、書店で時刻表だと気づかなかつた」は小学校一年の時。こたつに置かれた時刻表をめくると、父は新宿から小田原まで行き方を教えてくれた。読みない漢字もあつたが一人で読みふけり、列車を乗り継ぐと遠くに行けることが分かりワクワクした。時刻表を握りしめて母の実家がある兵庫県宝塚市まで一人旅もした。



鈴木さんの一番のお気に入りの表紙は一九七八年十月号の「東海道新幹線開業の1964年10月号」(左端)から一年間、毎月新幹線が表紙を飾った

## 「旅の遠回りや途中下車 人生も同じ」



豆知識  
一八七二(明治五)年、品川→横浜(現在の桜木町)で鉄道が仮開業した時の時刻表は品川駅高輪口の碑に刻まれていて、現在は廃止される路線や

「時刻表があれば懐かしい旅行を振り返ることもできる。時間旅行を楽しめる空間にしたい」

「列車の旅は遠回りや途中下車もできる。人生も同じだと思います。失敗したり迷つても、別の道があると時刻表を読みながら学びました」

「列車が相次いで止に、時刻表はネットで検索できる。紙の時刻表の需要は減少し、時刻表を廃止する鉄道会社も増えている。それでも鈴木さんは時刻表を買うのをやめないと」

小さな文字と数字がなぜか旅情を誘う時刻表。中野区の会社員鈴木哲也さん(53)は、鉄道ファンのバイブルとして長年愛されているJTB時刻表のとりこになり、770冊以上を集めた。時刻表愛が高い、ついには自宅に時刻表ミュージアムを完成させた。

ミュージアムに入ると、部屋の真ん中には時刻表神社が。伊勢神宮や出雲大社の安全祈願で知られる京都の首途八幡宮の神札と一緒に時刻表が祭られている。鈴木さんは毎朝拝んでいるという。

神社をとり囲むように置かれた本棚には七百七十四冊の時刻表が発行年順に並べられている。「時代を反映しているので表紙を見ているだけでも飽きません」と鈴木さん。

四国の南東端で、鉄道と道路の両方を走ることがで